平 成 ２ ０ 年 ６ 月

[配布先：全組合員]

市 場 情 報

「日　時」　　平成２０年６月４日　(水)　正午 ～

「場　所」　　名古屋「安保ホール」

「出　席」　　酒 匂 委員長他　２０名(最終頁参照)

「経　過」

1. 酒匂委員長挨拶

地　殻　変　動

５月連休明け後、冬のような寒さが続いて、毎日の世界のニュースもミャンマーのサイクロンとか、中国の大地震とか大災害が連発しておりますが、鉄鋼業界も資源の地殻大変動が勃発、オーストラリアの大洪水が重なって、ついに大手自動車メーカーも造船も３万円の値上げを受け入れました。

我々シヤリング業の強い味方「冷鉄源も」限りなく７万円に近づいてきました。韓国の輸入米国クズ(シヤリング組合員はクズという人はいませんが)は７１９ドルだそうです。

さああらゆる鋼材がメーカー出値１０００ドルを超える未知の世界に、我々は足を踏み入れてしまいました。もう今までの経験も知識もあまり役に立たないかも知れません。これからはメーカーも商社も組合員も、皆手をつないで横断歩道を渡る時代ではなくなったような気がします。皆それぞれ「大切な人」が変わったのかも知れません。

我々は、これからお客様に対し、正確な情報をタイムリーに伝える説明責任をはたすのはもちろん、大切なユーザーに対し、仕入先のメーカーさんにも商社殿にも、問屋さんにも目線を合わせてもらうように努力をつづけなければなりません。

今大切なお客様をしっかり守らねば我々組合員の存在価値はなくなります。

「そうは言っても先立つ物(ブツ)がないんです」「お互い様です。わかりますよ」ではドウドウめぐりですよね。頑張りましょう。この地殻変動ははじまったばかりですよ。来年もおそらく続きますよ。

２．各地区の需要動向

北海道

与　信　管　理

札幌では、桜・梅共に平年に比べ１０日早い開花でしたが、早い春の訪れも一瞬の喜び、ゴールデンウィーク以降、道東、道北方面で大型低気圧来襲による観測史上初の豪雪、リラ冷えによる低温が続き遅霜の影響で農業にも大きな被害をもたらし、道内の景気は消費、雇用情勢など、取巻く環境は依然厳しい状況にあります。

しかし、本年７月には洞爺湖サミットが開催され北海道は世界から注目されます。又、原料・資源の高騰は、石炭などエネルギー産業や、小麦・大豆・乳製品等農産品も価格・品質で輸入品に十分対抗出切るようになり、明るい兆しも見えてきました。

〔鉄　　骨〕 平成１９年度建築統計による北海道地区の鉄骨推定は２０３，９００トンと前年度比(２３３，４００㌧)１２．６％減と改正建築基準法の影響や道内景気低迷の影響は予想以上に深刻であり、鉄骨需要は平成に入って

最悪であった、平成１７年度（１９６，０００㌧）に次いで、ＦＡＢ業界にとっては非常に厳しい一年であった。

一方、鉄骨需要の先行きを示す鉄骨部会の積算数量によると１～４月の実績は９２、３２８トンと、前年同期比（５２，４２０㌧）７６％増と例年を上回る水準で、引き続き好調に推移している。今年の道内鉄骨需要は道央を中心に大型物件が相次いで発注され、需要量としては例年を大幅に上回っているが、大型物件は大手ファブに偏っており、先行き山積調整と材料高騰の中での材料先行手配に苦心している。

又、一部のＨグレード ファブやＭグレード、Ｒグレード以下は７月の手持ち量の減少と資材費高騰及び手配灘などの影響で工事延期や見直し、中止も目立ち、(今年の大型物件の一つ、地方自治体の病院が入札辞退に追い込まれた)中小物件が少なく、先行き山積み確保に奔走している。

このような状況下、鋼材の高騰価格の転嫁に加え溶接棒はじめ消耗品、輸送費なども軒並み価格高騰しており、今年は材料の確保と、値上げ転嫁適正利潤確保が最大の課題である。

〔橋　　梁〕　年初発注の追加補正・ゼロ国債は、政治の混乱に加え公共投資の大幅縮減、道を筆頭に各市町村の厳しい財政事情等により、みごとに裏切られ、北海道開発局発注２，３００トン（平成１９年　２，７００㌧）北海道庁発注０（同　３，２００㌧）市町村２４０トン（同　２５０㌧）合計２，５４０トン（同　６，１５０㌧）前年比５８．７％減と非常に厳しいスタートとなった。

平成２０年度、本発注予定は開発局１２，０００トン（同　１０，５００㌧）道１０，０００トン（同　７，８６６㌧）市町村３６０トン（同　４００㌧）ゼロ国債、本予算合計、平成２０年度２４，６００トン（同　２４，７１６㌧）発注予想されているが、ガソリン税の混乱から流動的であるが５月から順次発注見通しである。

又、橋梁耐震対策、補修・補強材としての落橋防止装置、橋梁拡幅補修用鋼製床版工事は予定通り順調に発注され、今後も予定通り発注が期待されるが、橋梁材、補修材共に鋼板の枠確保と価格転嫁が最大の課題である。

〔切板価格〕　昨年後半から遅れていた道内中小物件に加え、大手ファブの首都圏中心の道外大型物件の受注加工により各シヤー業者共、切板受注、加工数量、販売価格、稼働率にバラツキはあるものの安定操業が出来た。

しかし、型、異型、小口、小物の増加に加えメーカーの引受け枠カット、納期遅れ、在庫減により歯抜けサイズも増えており、市中手配による価格上昇、副資材・消耗品、輸送費等の高騰によりコストは大幅に上昇している。

又、ミルメーカーは資源価格の高騰を背景に、過去に経験したことのない大幅な値上げに加え、大幅な引受けカットで供給が極端に絞られている。

今年は道中央地区を中心に大型物件が目白押し、受注物件の鋼板をいかに確保するか、厚板母材の値上げ及びコスト上昇分を切板受注価格に確実に転嫁し、適正に利潤を確保するとともに、鋼材など諸資材価格の高騰に伴う資金負担増による与信リスクが高まる中、与信管理を確実に実行することが最大の課題である。

（玉造・西村孝治）

東　北

二　極　化

街路樹の新緑も濃くなり、初夏の趣を増して来ております。

東北では、仙台地区再開発ビル、東芝北上工場、セントラル自動車宮城工場、等の大型物件の計画がありますが、地元ファブへ仕事が入ればと願っております。

ファブの稼働状況は、Hクラス以上は満杯の状況ですが、Mクラス以下ではHクラスの物件の応援で忙しいファブと、想でないファブと二極化の現象

になっており、物件の引き合いも大型物件は旺盛ですが、中小物件・スポット物は激減しております。このような状況の中、材料のメーカー枠は相変わらず厳しく、引合いはあるものの受注の調整を強いられている状況です。

材料価格もさらにアップの要望があり、この状況で行けば夏場にはスポット物での切板価格は１５０円台にせざるを得ないことになります。

ファブでは、価格より材料確保を最優先にしており、我々も出来る限り対応したいとの思いですが、１００％対応できないジレンマがあります。

物不足、価格高騰、物件の二極化の、三重苦で嘗て経験のない状況に戸惑っています。

（ＪＦＥ鋼材・湊和志）

東　京

橋梁・鉄骨発注とも年内高水準

１.Ｈ１９年度実績

〔橋　　梁〕　Ｈ１９ＦＹは、Ｈ１７ＦＹ後半～Ｈ１８ＦＹ前半の談合問題影響により、Ｈ１７～Ｈ１８ＦＹ案件が大幅にＨ１９ＦＹ以降にずれたこと及び、造船大手が橋梁から撤退したことから、我々の需要家である専業ＦＡＢの手持ち工事量は極めて高いレベルとなった。

しかし、メーカーロールがネックとなり、生産レベルはＦＡＢ要望ほど伸びず、対前年比+１０％程度にとまった。結果として我々の生産は、Ｈ１８ＦＹ２Ｑから立ち上がり、高原状態が続いており、Ｈ１９ＦＹは年間を通じて安定的に高水準の生産が維持できた。

〔鉄　　骨〕　首都圏の超大型物件がＨ１８ＦＹから大幅にずれ込み、Ｈ１９ＦＹ３Ｑから本格的に立ち上がった。従って、Ｈ１９下は対上期+２６％の増となり、年間では対前年+３１％の大幅増となった。

〔全　　体〕　橋梁が年間を通じて高水準であったこと及び、鉄骨も下期か

ら大きく立ち上がったことから、各社ともほぼ年間を通じて高稼働が維持できた。但し、下期は、メーカーロールが更にタイト化し、ロールの付き方次第で、オーバーフローする社と穴が空く社が現れた。

２.足元の状況及び今後の見通し

〔橋　　梁〕　各ＦＡＢは、ロールネックもあり昨年度以前の案件を大量に抱えている。従って、例年落込む４月も、今年度は高水準を継続しており、今後も高水準が続く見通し。各社の見込みでは、少なくとも年内は続く見込み。

全国的にも、Ｈ２０ＦＹの橋梁発注は４０万トン程度の見込みだが、鋼材発注ベースでは、昨年度案件のずれ込みから、昨年並みの５０万トン程度見込まれている。

〔鉄　　骨〕　足元、ＦＡＢがＧＣに対し強硬な値上げ交渉を行っており、１月以降新規案件の発注がずれ込んでいる。従って、４～６月はやや低調となるものの、着工時期からも７月以降は再度高水準に戻る見込み。

また、現状ＧＣが抱えている概受注の大型案件は、ふんだんにある模様で、ＦＡＢ能力の取り合いになっている状況。従って、年内は高水準の発注が続く見込み。

〔全　　体〕　橋梁・鉄骨とも年内は高いレベルの発注が続く見込み。通常からすれば、各社フル稼働できるレベルと思われるが、メーカーロールが更にタイトさを増しており、稼働はロール次第。

〔在　　庫〕　鉄骨が本格発注となったＨ１９．３Ｑ以降、全体生産が高原状態にあることと、メーカーロールの遅れから、在庫はＨ２０．２月以降激減しており、在庫率もこの一年間で最も低い１．８ヶ月レベルにある。今後もこの状態は続く見込み。

（富士鉄鋼センター・井沢純司）

東　京

産建機は材料入手がネック

建設機械の国内需要は頭打ちの様相を呈していますが、輸出は新興国・産油国を中心に旺盛なインフラ整備需要が続いており､08年4月実績で67ヶ月連続の出荷額増加との発表されたように建機メーカーの生産は依然高水準が見込まれています。

これに伴い関係シヤーは、上限まで来ている生産のさらなる増産対応策、高炉メーカーの限られた枠内での素材調達の調整、また数次に亘る値上げ実施時期交渉とそれに伴う膨大な事務処理にも頭を痛めているようです。

しかしながら、北米の景気低迷の影響はユーザー各社の受注動向にも確実に現れており、現在でもネックとなっている部品調達や鋼材の入荷遅れの実態を勘案すると、計画通りの生産が実施できるかは疑問視されます。

重電も堅調な受注が続いている模様です。　今後の受注も秋口からの変圧器（+25％～30％）や、09年初めからスタートする大間原発等々見えており、また長期的には世界的に環境配慮の観点から再評価され始めた原発建設計画が期待されます。

昇降機については、上期が不需要期のところにマンション建設不振の影響が重なり各メーカーとも受注が落ち込んでいるようです。

ダンプは鉱山機械としてのものは大幅増産計画となっているものの、他のタイプは生産調整されており、全体としては増えていますがこの分野でもまだら模様の現象が見えています。

金属加工機では国内需要は微減といったところですが、ロシア・欧州を中心に輸出が依然好調で国内の落ち込みをカバーしています。

タレパン・ベンダーは一時期の好調さは無く、また汎用プレスも落ち込んで

おり国内の設備投資関連は失速が鮮明になってきた模様です。

産機店売り部門は2･3月の仮需の反動で4･5月と売上は低迷している様子。頭が痛いのは、足元の受注内容には夏場の先行発注らしきものもあり、更なる受注減があるのではないかと危惧されることや、切板単価において受注不振による様子見で価格転嫁が十分にできておらず、新単価の素材入荷時での逆ザヤ現象が非常に不安です。

（ニューエイジ・池田啓志）

東　京

・浦安地区の５月の一般店売り状況は荷動きが非常に悪い。半減状態。２－３月の仮需要の反動で4－5月はガタッと来た。在庫は販売減により増加傾向。材料入手も先細り状況にあり、足元の価格転嫁も一服状態。

（三ノ橋鋼材・角田善彦）

・市中段階ではメーカー値上げ分は先に織り込み済み、紐付きについてもうむを言わせず受け入れさせた。このような状況が続いた場合、建材需要がこの先激減するのではないかと心配だ。大手シャーは足元堅調だが、中小シャーは不振で今日明日を食いつなぐのに精いっぱいの状態。価格転嫁、材料確保、与信問題等々課題が多く、先がよく見えない。

（丸東興業・秦　弘志）

東　京（書面参加）

価 格 転 嫁 速 度 の 鈍 化

相次ぐメーカーの価格値上げで素材の騰勢の衰えはないものの、荷動きが低調で、価格転嫁が鈍化している。末端実需の低迷が原因である。

日常の引合い状況は棒高な先行価格が唱えられ、スムーズな需給の成立に

至っていない。大型物件を中心に山積みは高い水準と言われているが、供給側の受注、納期調整等の要因で加工予定が総じて先送りとなっており、業者間の販売競争、価格崩壊、従来型悪循環に至らなければと懸念する。

浦安鐵鋼団地組合の４月度の景況感調査結果に於いても販売、収益状況は（横這い、上昇７０％）を越える回答ですが、稼働率、先行きの景況感は（横這い、下降不況７０％）と３月に続いて悪化予想回答となっている。

先の展開が読みにくい難しい状況ではあるが、地道な営業活動でシヤリング業に平和を。

（関東シヤリング・斎藤隆夫）

東　海

店売り閑散、紐付き多忙

東海地区の車両建機工作機械向ヒモ付きシヤーは忙しいのだが、４～５月は材料の入りが悪く、ユーザーからの納入要求に応えられず生産が上がらなかった。しかし６月からはメーカーとの話合いがつき、納入が改善される予定である。

昇降機向けヒモ付きシヤーは、ユーザーが年初は生産ＵＰを唱えていたが、いまだに建築基準法の影響と材料高による施主からのキャンセルもあり、４～６月は生産が落ちてひまな状況になっている。

一方、店売りシヤーは３～４月に掛けては、ユーザーの切板値上げに対する警戒感などもあり駆け込み需要が出たが、５月に入ると自動車メーカーの一次下受けの設備やクレーンの乗せ替えや、トレーラー関係の切板が出ている店売りシヤーもあったが全体的には仕事が少なかった。

メーカーは店売りシヤーに対して段階値上げをしているが、店売りシヤーもユーザーに対しての値上げ転嫁は出来ているが、値上げ幅が短期間で多かった為、与信問題が出てきた。

店売りシヤーの在庫は、高炉材の入が悪い為、少なくなっているが出も悪いので、まだ２ヶ月強は持っている。

しかし、一部店売りシヤーでは、非常に在庫が少なく生産調整をしたり、スポットで買ったりしているが、スポット価格が切板価格に接近しているので、材料を買えたとしても、売りにくい状況になっている。

シヤリングの薄物を扱う業者は、大手自動車メーカーの値上げが７月１日と決定した為、６月に入り駆け込み需要が出始めたが、店売り厚板シヤーは６月に入っても、仕事が少なく切断トン数は上がっていないが、売り単価は上昇しているので、ある程度の売上はあり、現在までは、在庫単価の恩恵を受けて経営的ダメージは少ない。

しかし、今後は与信の問題も含め、材料の歯抜けや在庫単価の上昇などで、仕事が出てこない限り経営的なダメージを受けてしまうと思われる。

（鈴将鋼材・鈴木康司）

東　海

・産建機は５月に入って様変わり。メーカーの引き受けカットにより入手難が進む。建築は大型案件は堅調、中小案憲は引き合い少ない。在庫は適正レベルで推移。これまでの価格転嫁ほぼ完了も、メーカー再値上げ分の再転嫁が今後の課題。（ＪＦＥ鋼材・吉住　浄）

・橋梁は枠の確保ができない。建築はユーザーの抵抗あるも、価格転嫁を受け入れている。大型案件あるが、中小案件はほとんどなし。スクラップ７万円へ。（中部鋼鈑・加藤一修）

・建材の仕事は６－７月まで堅調続くも、それ以降は枠が決まらず厳しい。商売がやりにくい。（熱金鋼業・山村　熹）

・橋梁発注は前年比横ばい程度。産建機は北米向けに陰り出るもメーカーの生産計画は相変わらず強気。いずれにしても材料の入手いかんで決まる。

（東海鋼材工業・髙田）

・店売り材はメーカー供給が滞り、入手がきつい。地元密着型の商売が主。浜松はオートバイ、最近では新しい産業として宇宙産業が注目されている。

（有川シャーリング工業・有川京司郎）

東　海（書面参加）

ユーザーへの理解活動を

５月に入り、自動車価格の決定が新聞紙上を賑わせてまいりました。

この先高炉各社の店売り再値上げ、申し込みカットの影響が出て来て、年初に感じられた、歯抜け・タイト感が見られるかと思われます。

但し、工作機械・設備関係も一服感が見えてまいりましたので、価格の再値上げ浸透には、客先のご理解を求める営業活動が必要だと思われます。

仕入れは、既に仕入価格が先行値上げをし、仕入先にも理解を求める営業活動が不可欠だと思われます。

（辰巳鋼業・石谷誠）

大　阪

材料手当てがシャー操業を左右

建築物件は前年度から継続物件があるものの、新規物件に乏しいこととＭグレード以下のファブにはあまり仕事がまわってこないことから、ファブ間でかなりの温度差が出てきている模様。

ただ建築着工面積を見ると前建築物の着工面積では前年同月比が９ヶ月連続で減少しているものの、Ｓ造・ＳＲＣは共に前年同月比および前月比を上

回った。改正建築基準法の影響は薄れてきたが、価格の高騰や影響が大きくなってきた。シャープ堺や松下姫路等の大型プロジェクトによって関西地区や周辺地域のＳ・Ｈクラスのファブは商社を巻き込んだ材料手当てに奔走している模様。

橋梁については、０７年度の物件が相当量０８年度の材料手配になっていて橋梁メーカー各社は購買価格はさておき、材料手当てをすることが優先課題になっている。

又、ロール枠の減少・納期遅れ等に加ええてファブ能力減による明細の判明遅れ等、工程面で四苦八苦しているが、この状況は一向に改善される様子もなく、先ずはメーカーの対応如何でファブ、シヤーの状況が変わってくる。

（ＪＦＥ 鋼 材・藤澤憲司）

大　阪

やっと仮需沈静化

３月度は引き続きスクラップ価格は同様の上昇を見せた。決算月を迎えた影響も大きく、前倒し需要にも一段と拍車がかかり切板価格も２月度に比べ１万円の上伸となり材料確保を優先した価格となった。

４月度は沈静化すると思われた前倒し需要がなかなか収まらず、中盤に至ってようやく落ち着いた感が出てきた。が、メーカーサイドの入着不良と前月・前前月の前倒し需要により市中在庫の急激な減となり、価格は前月に比べ約５千円の更なる上伸を見た。スクラップ価格は３月度以上の上伸となった。

また、３月に新関西製鋼の受電設備破損による電炉休止の影響で主に建機向けベンダー品の一般市中への供給要請があり、これも市中在庫の圧迫と価格上伸に影響を与えた。

５月度はようやく前倒し的な物件がなくなり、代わって今年度の新規物件

の見積りが増えてきた。メーカーサイドの数量カットを伴った値上げ姿勢は変わらず、価格は前月比約１万円の上伸を余儀なくされた。よって、目先の物件に価格対応が出来ず平年並みもしくはやや減といった稼働状況であった。

３～５月を振り返って、鉄鉱石・原炭の価格上昇に始まったメーカーサイドの鋼材価格値上げは高炉のスクラップ購買意欲を加速させたため、近年まれに見るスクラップ高騰を生じさせたようである。その上、マンガン等の副資材の価格上昇や原油高によるエネルギーコストの増大が鋼材価格を押し上げた。また、国外需要への供給・輸出を重視したため、メーカーの紐付き物件の比率が上昇し一般店売りへの鋼材供給量の減少となり、切板価格の上昇となったようである。

今後、自動車・造船関連の鋼材購入価格の上昇容認をうけ、切板価格の下落は考えにくい状況ではあるが、現実にはすべての特約店・加工ユーザーがそれぞれの売価へ価格転換が実現するとは考えにくい。また、価格上昇に拠る与信不安の増大も懸念され予断の許されない環境である。

（㈱玉造・椿下卓司）

九　州

大型建築案件と橋梁は山が高い。従って、大手ＦＡＢと大手建材系シャーは多忙。しかし、４月までの仮受注の反動と、中小建築案件の低迷により、中小ＦＡＢ・中小シャーの仕事量は少ない。特に南九州は悪い。また建築系シャーの与信面の不安が増大している。母材値上げに伴う価格転嫁は徐々に進展。在庫はタイト。　（豊鋼材工業・嶋津邦夫）

３．川口東海支部長挨拶

東海支部は 34 社が加入しており、うち２０社が青年会メンバーで、２～３代目の若手経営者が当地区の事業運営を支えている。また当地区は橋梁分野でも産建機の分野でも歴史的伝統といえるかも知れないが、シャーとユーザ

一が非常に円滑な関係を維持しどんな状況でも混乱が少ないといった特徴がある。今の当業界においては仕入れ能力のある会社が強い。そうでないと生き残りが難しい時代になってきた。折角全国から当委員会にお集まりいただくので、次回（来年 3 月）の名古屋開催では工場見学も兼ねて実施する方向で企画したいと思う。

４．木村副委員長の感想

本日の地区報告では北海道をはじめとして力強い報告があり、九州も総じて需要は堅調に推移している。鉄鋼業界における資源価格高騰によるコスト負担増が約３兆円といわれるが、これが今回のメーカー出値の大幅引き上げにつながっている。先般、日建連では資材コストの上昇分は今後施主に理解を求め転嫁していくとの報道があった。ユーザーサイドのこうした動きは我々にとってフォローの風であり、この風をとらえてシャー業界もできるだけ利益確保に努めて、次に備える必要があると思う。

５．髙木理事長の感想

全国的に需要は中小の建築案件を除き総じて堅調に推移しているが、材料入手難の中で、メーカー値上げ分の価格転嫁に苦慮しているようであるが､今後ともユーザーに根気よく事情を説明しながら理解を得るしかない。それ以外の課題としては、①与信問題。従来のパターンとは事情を異にしており、秋口に向けて、　資金繰り面で留意する必要がある。②品質管理問題。姉歯偽装事件、エレベータの異材混入問題に端を発し、以来品質保証の問題は社会的に非常に厳しい目が向けられてきている。現在、当組合も国交省等でメンバー構成されている「鋼材品質証明検討委員会」に参加し、検討を進めているが､近々組合としての考えを支部長を通じてまとめる予定

である。③運賃エキストラの問題。これら業務改善に関する事案については必要に応じてタスクフォースを設けて対応し、不都合な問題をできるだけ効率化していきたいと思う。ぜひご協力をお願いしたい。

（参考）　≡　出席者　≡　（順不同敬称略）

	酒　匂	委 員 長
	木　村	副委員長
ゲスト	髙　木	理事長
〃	川　口	東海支部長
北海道	西　村	（玉　造　㈱）
東　北	湊	（Ｊ　Ｆ　Ｅ　鋼　材）
東　京	秦	（丸　東　興　業）
	池　田	（ニューエイジ）
	井　沢	（富士鉄鋼センター）
	角　田	（三　ノ　橋　鋼　材）
東　海	吉　住	（Ｊ　Ｆ　Ｅ　鋼　材）
	山　村	（熱　金　鋼　業）
	有　川	（有川シヤリング工業　）
	鈴　木	（鈴　将　鋼　材）
	加　藤	（中　部　鋼　鈑）
	髙　田	（東海鋼材工業）
大　阪	椿　下	（㈱　玉　造）
	藤　澤	（Ｊ　Ｆ　Ｅ　鋼　材）
九　州	嶋　津	（豊　鋼　材　工　業）
事務局	柘　野	

市場委員会の次回開催予定

第１３８回市場委員会

９月８日（金）正午～

於　東京・鉄鋼会館（８０３）